

## 基本計画策定委員会における当面の議事に関わる論点について

前回作業部会までの議論の論点整理と、今後の当委員会における基本問題議論のタタキ台として、下記私案を提示します。

### 1. ゴミ減量問題

4月8日作業部会では終始ゴミ減量対策が議論となりました。5000トン減量が施設計画の前提ですから当然最重要問題です。最近のゴミ減量化傾向が不況に影響されたものなのか（即ち、景気回復により増加に転じる可能性があるのか）、別の要因で減量化が進んでいるのか、何れにせよ、人口増加を見込む一方でゴミ減量を前提とするには、それら要因分析に基づき、減量化対策実施による数字的目標達成の確度が極めて高いことを当委員会として検証しない限り、施設の処理能力を判断できません。

達成の不確実性が高いと判断されればその分、安全係数を大きくとることにならざるを得ません。しかしながら、能力増はそのままコスト増につながります。20トン増やせば10億円のコスト増にもなってしまうので軽々に結論を導くのは禁物です。

当委員会の本旨は新センターの基本計画策定であって、ゴミ減量対策ではありません。ゴミ減量対策を専門に扱う協議会があり、それを具体的施策として実施する行政側から、減量の数字的裏付けの説明を受けた上で、当委員会がやるべきことは、達成の確度を納得いくまで検証することだと考えます。減量協議会にとっては目標かも知れませんが、当委員会にとっては100%近い達成確度が要求されるからです。

### 2. 基本コンセプト

前回委員会で事務局からコンセプト案が提示されましたが、内容的にはコンセプトというより、理念に近いものと思われれます。基本計画を各論に落とし込む上での基本的考え方を整理することで、今後各論を議論する方向性が定まります。私なりに考えた、いくつかのポイントについて例示します。

#### 新センター機能

単なるゴミ処分施設ではなく、ゴミ発電と太陽光発電設備をも兼ね備えたクリーンエネルギー供給機能を付加することにより、「クリーンセンター」という名に相応しい施設機能に拡充する。

#### 処理システム設計コンセプト

市内唯一の施設であることに鑑み、実績重視・安定稼働重視のシステムを採用することを基本とする。

#### 環境レベルと経済性

現状と同等またはそれ以上の環境レベルを目指す。但し、極端な改善を求めることは2次曲線的に経済性を損ねるので双方の両立を図る。

以上は飽くまで例示であり、異なる切り口であっても構いませんが、基本コンセプトについて委員会としての意見集約を、先ずは図ることを提案します。

### 3. P F I 導入問題

P F I とは、**Private Finance Initiative** の略です。即ち、民間資金活用という意味です。**Finance** という言葉を広義に解釈して、事業リスク負担が可能な民間企業のノウハウ活用も含まれます。一方、民間資金を使わず、事業リスク負担を伴わない一部作業の民間委託は単なる業務委託であって、P F I ではありません。

米国や途上国では P F I 事業が盛んです。そもそも米国では公共的事業であっても民間が担うことが歴史的に定着しています。仏では水道事業も民間が担っています。他方、途上国に於いては資金力と事業運用ノウハウが乏しい為、主として海外資本による P F I を導入します。例えば、電話事業では、数千億円規模のインフラ投資と一定期間の運用を任せ、投資リターンは加入者収入から得てもらう仕組みです。発電事業でも同様ですが、投資回収は電力会社への売電収入で行います（一般に I P P = **Independent Power Provider** 事業と言います）。

さて、武蔵野市の場合、資金力と事業運用ノウハウが乏しいでしょうか。そもそも、ゴミ処理事業は制度的に自治体が主体的に行うことになっているはずで、補完的に民間への業務委託があるにせよ、P F I 導入についてその是非を議論する必要性があるか疑問に感じます。

上記、今後の議論の参考になれば幸いです。

以上/上原